

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(国語) 科目：(現代文B) 対象：(第3 学年 1組～5組)

科目担当者：(1組：土門◎・若井◎) (2組：土門◎・若井◎) (3組：若井◎) (4組：土門◎・若井◎) (5組：若井◎)

教科・科目の指導目標	国語の基礎的な知識を身につけ、現代作家の代表的な作品を鑑賞する力をつける。評論文などの論理的文章を読解できるようにする。進路実現に向け、自分の意見を論理的に説明したり文章に書いたりできるように文章力をつける。漢字、語句の正しい読み書きや意味に応じた使い方ができるような力を身につける。
------------	--

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 基本的な漢字の読み書きが習得できていない生徒が多く、音読みと訓読みの違いなども理解していないこともある。</p> <p>2 語彙に関しては、辞書の意味が文中でどのような意味として転用されているか、イメージを広げることが困難な生徒が多い。</p> <p>3 文学作品においては、作品の情景描写の中から、行動や心理を読み取っていくことが難しい。</p> <p>4 論理的文章を読み、文脈をたどりながら文章の構成や要旨を読み取ることが苦手である。</p> <p>5 話す・書くなどの表現分野を苦手とし、書く手順について習得できていない生徒が多い。</p>	<p>1 外国人のみならず、日本人の中にも、「漢字を正確に覚えて書く」という意識の低い生徒が居るので、漢字を正確に覚えさせることに力を入れる。</p> <p>2 複数の意味を持つ語彙の使い方に留意しながら、文章の中での適切な意味を把握できるようにする。</p> <p>3 短編の作品(とりわけ現代に近い作品)を数多く取り上げ、生徒になじみのある情景描写の中から、作中人物の行動や心情を読み取る事ができるようにする。</p> <p>4 論理的文章、説明的な文章を読み、内容を理解できるようにする。</p> <p>5 スピーチ・作文・ディベートなどを通じて、表現力を高められるようにする。</p>	<p>1 授業中の小テストによる漢字能力の定着の確認など、こまめな指導をおこなう。力をつけた生徒には漢字検定など、積極的な挑戦を促す。</p> <p>2 日常生活において、具体的に語彙の活用場面を想定しながら、言語感覚を磨いていく。</p> <p>3 教科書掲載の作品から布衍して、現代日本の作家の作品をできるだけ多く紹介していく。さらに、図書室なども利用し、自分で文学作品に触れていく機会を広げられるように指導する。</p> <p>4 評論文、説明文なども身近なテーマを取り上げた文章から文章構成を理解する力をつけさせる。</p> <p>5 作品について作文を書き、それを基に話し合う等の活動を行い、効果的な表現方法について考える機会を持たせる。また、新聞教材を通して表現力を高められるよう指導する。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			